

交流・文化施設等運営管理計画検討委員会 次第

(第5回美術館検討委員会、 第4回ホール検討委員会、)

日 時：平成23年8月5日(金)

午後2時10分～、 午後4時～

場 所：上田市役所本庁舎

6階大会議室、 3階第1応接室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 報告事項

・市民説明会の開催結果について

4 協議事項

・運営管理計画検討結果報告(素案)について

5 その他

6 閉 会

(配布資料) 資料 市民説明会開催結果概要

資料 基本設計の概要について

資料 運営管理計画検討結果報告(素案)

交流・文化施設市民説明会開催結果概要

開催趣旨

市内各地域で交流・文化施設の基本設計案と運営管理計画案の内容について市民の皆様にご説明し、意見交換と情報の共有化を図り、今後のより良い施設づくりに活かすため、平成23年5月～6月にかけて、市内各地域において9回開催しました。

参加状況

日	会場	想定地域	参加者数
5/23(月)	長瀬市民センター 大ホール	丸子地域	38人
5/24(火)	塩田公民館 大ホール	塩田地域	69人
5/25(水)	真田中央公民館 大ホール	真田地域	65人
5/27(金)	武石公民館 コミュニティホール	武石地域	51人
5/29(日)	上田文化会館 ホール	全市・中央地域	81人
5/31(火)	上田創造館 文化ホール	城南・川西地域	107人
6/ 2(木)	丸子文化会館 小ホール	丸子地域	75人
6/ 4(土)	西部公民館 大ホール	西部地域	37人
6/ 6(月)	上野が丘公民館 大ホール	神科・豊殿地域	128人
開会は全会場とも午後7時から		合計	651人

説明会で出された意見等

(資料 のとおり)

交流・文化施設 運営管理計画検討結果報告（素案）

交流・文化施設の基本理念

交流・文化施設の運営管理にあたっての基本理念は、「交流・文化施設等整備計画」に記載の内容を尊重し、以下のとおりとすべきと考えます。

基本理念

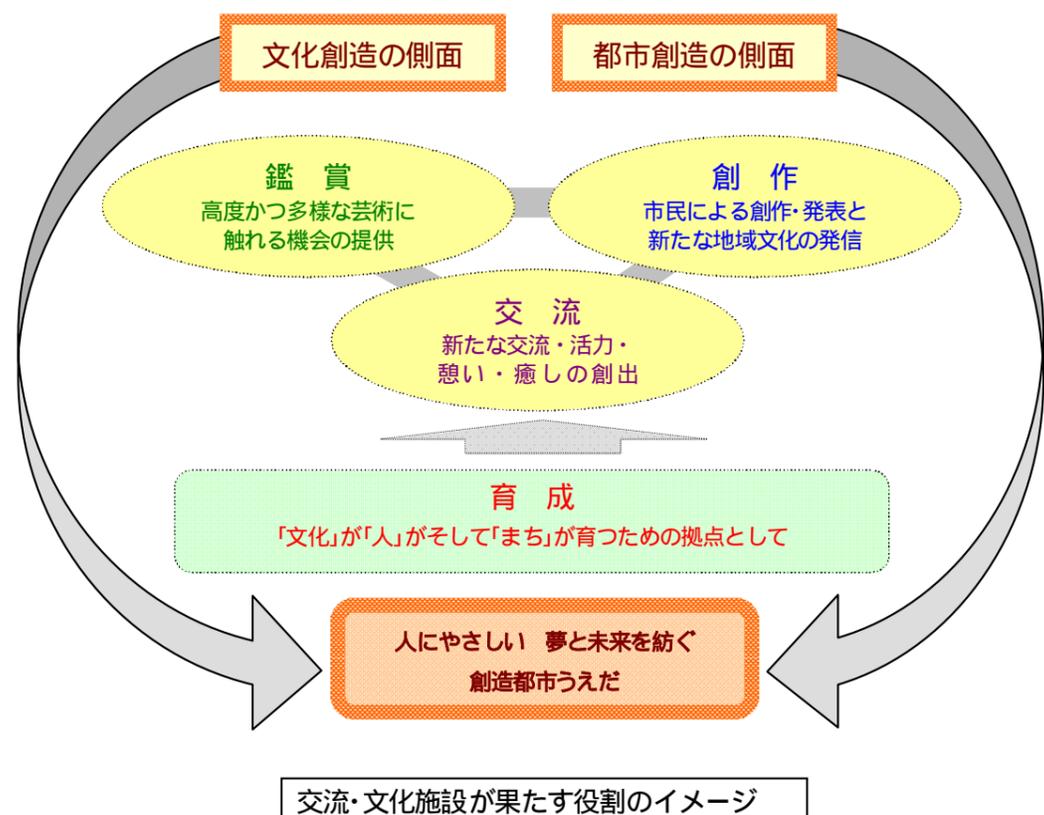
「人にやさしい 夢と未来を紡ぐ 創造都市うえだ」の実現

基本理念の根底にあるものは「育成」

文化芸術が育つことは、すなわち「人」が育つということ、とくに次世代を担う子どもたちを、良質な文化的生活環境のなかで心身ともに健やかに育てていく必要があります。

「人」が育つことは「まち」が育つことへとつながる

育成の取組みが醸成された地域文化を形成するとともに、まちの賑わいや活力を生み出す拠点として、魅力あふれるまちづくりへの架け橋となります。



<参考> 市民説明会等での意見

- 基本理念全体について
- ・上田市民が誇れる建物になると思う。掲げられた理念の実現を願う。市のシンボルのために。
 - ・着実に実行してほしい。理念に沿った方向で上田市に進むことを望む。
 - ・今までは文化と縁の遠かった人も文化に近づけるので素晴らしいと思う。
- 「育成」の視点について
- ・将来を担う子ども達の育成、これから子どもを育てていく世代の私たちにとっては、とても魅力的な計画。
 - ・育成は後々の為に大切な事であり、育成事業が積極的に開催される事を望む。
 - ・将来を担う子ども達のため、文化の高い上田市の発展を望む。
 - ・次世代の子ども達のために、今、市民が立ち上がる時。
 - ・夢ふくらむ未来と子ども達の為に取り組んでほしい。
 - ・理念である育成は大事な事。学校に勤めているので、子ども達のためと掲げていることに大変感謝している。本来、ホールや美術館を活用して心豊かな子ども育成が必要だと思う。それが実現してほしい。
 - ・子ども達のためにいい施設を残していきたい。それが伝統文化を伝えていくことになる。
 - ・文化を大切にしないところの郷里（土）に有為な人材は育たない。この施設が子どもを育てるところに力点をおいている事は大切。
 - ・文化の振興が一番に取り組むべき問題。これにより、子どものいじめ、不登校、大人の自殺等が大きく変革すると思う。心の豊かさにより価値観が変わり、苦難を乗り越える強い心が育つのではないか。
 - ・将来ある子ども達のために、満足度の高い計画にしてほしい。
 - ・未来の市民（子ども）のための投資は必ずしも大型公共施設であることを要しない。
 - ・この理念は大切だが、子ども達に借金を残せない。小中学校が全体で集まるには、交流・文化施設のホールでなくても、長野県の県民会館にバスで行くなど方法はあると思う。
 - ・市民の生活が豊かにならなければ、コンサートや演劇に行けないと思う。「先に建設ありき」で進められているように見え、ロマンが感じられない。子ども達が心豊かに育つということは良いが、保育園や幼稚園、小中学校でよい環境（人員配置、少人数で行き届いた保育や教育）のもとで保育されたり、教育を受けたり、文化に触れるなかで心豊かな人間になるのではないか。
 - ・施設が子どもを育てるのではなく、指導する人が育てるのではないか。
 - ・文化事業は人の育成にはベターだと思うが、強い人を育成するにはスポーツのほうが良いと思う。

理念に基づく目標

本施設の運営管理にあたっての目標は「蚕都に協働で紡ぎだす未来への輪」を全体のテーマとし、「ひと」「文化」「まち」「施設」の4項目に対し「育てる」をキーワードに次のとおりとします。

ひとを育てる

「生まれてきてよかった！」 「生まれてきてくれてありがとう」
未来をつくる子どもたちが心豊かに育つよう、子ども向け事業を活動の中心にします。
「あ～すごかった！」そんな感動をおくります
これまでの上田に少なかった様々な公演、展示など、質の高い芸術に気軽に触れ合える環境をつくれます。
「“自分らしさ”をみつけたヨ」
参加体験型の幅広いメニューを提供。個性を磨き、互いの価値観を認め合える人づくりをめざします。

文化を育てる

「こんな人がいたんだネ」
先人が築いた文化に光を当て、次の世代につなげられるよう、全国に向けて発信します。
「はじめてみたよ、体験したよ」
日々進歩する芸術の世界を積極的に紹介。市民が発見し、上田が発信地になるよう共に歩みます。
「わたしにもできた！」
市民が自ら文化活動を行い、芸術性を高めたり新たな分野にチャレンジできる施設をめざします。

まちを育てる

「あの館も元気になったね」
既にある文化施設と協力、館外活動も積極的に行い、地域全体の発展を共にめざします。
「人があつまると、街も元気に」
全国大会、コンクールやフェスティバルなど、集客力ある事業を呼び込み、地域を活性化します。
「上田ってすごいじゃない！」
新たな上田ならではの文化を創造・発信し、“文化の薫るまち”を全国にアピールします。

施設を育てる

「いっしょにやろうヨ！」
時代のニーズや変化に柔軟に対応できるよう、市民と一緒に運営しともに歩む施設をめざします。
「いっしょにあるから便利だね」
交流ゾーンや緑地広場も含めた、複合施設としての特徴を活かします。

<参考> 市民説明会等での意見

- 「ひとを育てる」、「文化を育てる」、「まちを育てる」、「施設を育てる」について
- ・良い施設には人が集まり、市も発展する。上田市の発展のための施設としてほしい。
 - ・この施設は長年の市民の夢。「人が集まるまちづくり」のために不可欠な施設。人が集まらなければ街は衰えてしまう。
 - ・未来と子どもの為の施設という考えに感動した。「ふれあい」、「個性的」、そんなまちづくりにぜひ協力したい。
 - ・この地区は文化の面で遅れていると感じており、この施設が出来ることで、子ども達が良い芸術に触れて感性豊かになってほしいし、また、この施設は観光面でも活性化すると思う。
 - ・これまで上田市は対外的な活動が不十分だったと感じている。この施設をとおして市の魅力を発信してほしい。
 - ・これからの時代は、文化を愛する日本にしていかなければならない。こういう厳しいときこそ文化が必要。
 - ・この施設を利用して生活できれば、本当に活気のある生活が出来る。東信地方をはじめ他地域の方も活用できれば、みんな元気になる。
 - ・上田市が更にすばらしい市になる施設だと感じた。
 - ・コーラス団体に50年入っている。現市民会館は上田市の文化振興に寄与した施設。交流・文化施設はその水準を更に上げるために必要。
 - ・施設がある事で人が集まる。単なるホール、単なる美術館だけではない企画だと思う。
 - ・文化遺産を作るのは大人の責務。
 - ・「施設を育てる」市民と「一緒にやろうよ！」これが大切な目標だと思う。この目標に向かっていけば、市民手作りの施設、そして「文化・創造都市うへだ」ができると思う。
 - ・交流・文化施設を整備すれば、文化都市として全国の看板になる。
 - ・現代の子ども達へは教育が最も重要で、人は人からの影響が大。文化・芸術・美術に関しては良いことも悪いことも教師の姿から幼子は学んでいくと思う。
 - ・建物が出来たからといって文化振興につながるわけではない。文化というのはささやかな内面に向かう人間の心のあり方である。
 - ・この場所に施設を作るより、芸術に関しては基礎的な教育が先にあるべき。
 - ・「人が集まると街が元気になる」と言っても、文化施設に集まった人がそのままの大型商業施設に移動していけば、街中へにぎわいが広がっていく可能性は低いと思う。交流・文化施設を街の活性化へどのようにつなげていくかが重要で、周辺の一部だけがにぎやかでも街が元気とは言わないと思う。
 - ・芸術・文化を市民レベルで交流出来る素晴らしい施設になるように、時間をかけた議論を期待する。

目標を達成する手段（事業展開）

交流・文化施設では、目標を達成するための手段（事業展開）として、主に次のような事業を進めてまいります。

役割と機能	事業項目	施設	主な事業展開
育成	子ども育成事業	ホール	音楽家等とのふれあい・交流等 教育との連携 (芸術鑑賞、合同音楽会、児童・生徒発表会等)
		美術館	子どもアトリエ(幼児からの創作体験等) 教育との連携 (芸術鑑賞、児童・生徒の創作活動支援)
		ホール	魅力的な公演・オーケストラ等との提携 興行利用の推進(貸し館事業)
		美術館	常設展示(郷土作家の作品・顕彰展示) 企画展・県展・東信展等
	地域文化顕彰事業	美術館	郷土作家の顕彰・調査研究活動
	参加・体験型事業	ホール	ワークショップ (各種芸術を学び触れ合える場) 気軽に鑑賞できるコンサート等
		美術館	ワークショップ (各種美術を学び触れ合える場) エイブルアート、アートセラピー等
		ホール	アウトリーチ(出前コンサート等) 市民文化の支援と貸し館
	地域文化醸成事業	美術館	アウトリーチ (出前展示、講演会、出前ワークショップ等) 市民ギャラリー・アトリエ(貸し館)
	交流・地域活性化事業	ホール	大規模大会・集会(コンベンション)利用
		美術館	子ども美術コンクール等 工芸・クラフトフェスティバル
	施設運営支援事業	ホール	運営スタッフの育成 市民参加の推進(広報活動等)
		美術館	運営スタッフの育成 市民参加の推進(広報活動等) ミュージアムショップの運営
		施設全体	フェスティバル (大規模複合型集客イベント) 市民文化祭 既存文化施設との連携

<参考> 市民説明会等での意見

事業展開全体について

- ・利用が多いと思われる、50代以上の市民、子ども～子育て世代のそれぞれのニーズに応える事業展開を望む。
- ・子どもから20代くらいまでの若者が自主的に利用しやすい施設にしてほしい。
- ・開館記念事業を含め、今から積極的に具体的な事業計画を企画していくべき。
- ・高齢化が進んでいるので、子どもの育成事業とあわせ、高齢者の支援事業も取り入れてほしい。
- ・開館後は、館の活動を県内外に発信していく努力が大切。
- ・ホールや美術館に用事がなくても訪れられる施設にしてほしい。
- ・市の文化や観光に関する情報を揃えて紹介できる施設にしてほしい。また、それを案内するコンシェルジュのような存在や仕組みもほしい。

施設（機能）別の事業計画

前項の事業展開を、ホールと美術館の施設（機能）別に事業計画としてまとめると、次のとおりとなります。

印は子ども育成事業を含む事業です。

1. ホール施設の事業計画

(1) ホールの運営理念

「東信濃の新たな文化芸術活動の拠点を目指して」

(2) 事業方針

次世代を担う子どもたちを市民とともに育成
本物の芸術と出会い、刺激・感動を得られる空間
市民による自主的な文化活動への支援と協働
プロ公演や大会・集会での利用促進
市民とともに歩む、開かれた施設
美術館や交流施設との連携

(3) ホール機能を中心とした主な事業展開

子ども育成事業

音楽家等とのふれあい交流等
音楽/舞台関係者等と子どもたちとの交流事業をおこないます。
教育との連携
子どもたちが音楽や舞台芸術と触れあえるよう、各学校等と連携し、芸術鑑賞や合同音楽会などを実施します。

文化・芸術鑑賞事業

魅力的な公演・オーケストラ等との提携
演劇やオペラなど質の高い公演、伝統芸能、民族音楽等の公演を実施するとともに、実績あるオーケストラと提携し、定期演奏会等を行います。
・興行利用の推進
貸し館事業も積極的に行い、各種興行やイベントなど市民が様々な文化と触れあい、楽しめるよう努めます。

参加・体験型事業

ワークショップ
演劇ワークショップ、バックステージ公開等、芸術を学び触れ合う事業を展開します。
気軽に鑑賞できるコンサート等
ロビー・ランチタイム・親子など、気軽に親しめるコンサートを実施します。

地域文化醸成事業

アウトリーチ。
学校、福祉施設などで、出前で各種公演を行います

<参考> 市民説明会等での意見

子ども育成事業について

・子ども達を育てるという意味で、ジュニアオーケストラや音楽祭などを考えてほしい。音楽祭ではプロによる指導、セミナー等も行ない、子ども達の育成につなげてほしい。

文化・芸術鑑賞事業について

・コンサートや演劇など、ホールを活用するイベントを多く実施してほしい。
・有名アーティストの招致による大規模コンサートを開催してほしい。
・都会でしか観られないような、水準の高い催しを開催してほしい。
・東信に縁のある音楽家（武満徹など）を中心とした事業を展開してはどうか。
・柿落としてはぜひ有名劇団（劇団四季など）のミュージカルをやってほしい。
・西洋の芸術という考えではなく、むしろ上田らしい、獅子舞、神楽、演歌、和太鼓、映画などをどんどん取り上げていくべき。
・オーケストラとの提携は慎重に検討してほしい。失敗例もあると聞く。
・貸館事業を多く取り入れ市の負担が少なくなるように考えてほしい。
・大小ホールに評価の高い外国製のピアノとオルガンをそれぞれ各一台配置してほしい。
・ピアノの購入にあたっては、ブランド、音色、特色など、慎重に検討してほしい。
・ホールにグランドピアノの配置は当然だが、練習スタジオにもアップライトではなく、グランドピアノを配置すべき。本番と同様でなければ練習にならない。
・プロが使用するピアノと市民が使用するピアノは別に用意すべき。

参加・体験型事業について

・とても楽しみにしている。市民ひとりが年間に有料のコンサートに足を運ぶ回数は少ないと思う。日常的に行ける工夫（無料のコンサートなど）をお願いしたい。

地域文化醸成事業について

・例えばプロのオーケストラやアーティストの公演はもちろん、芸術系大学との提携はどうか。ある芸術大学では、県内はもちろん、隣県の学校まで出前コンサートを行なっていると聞いており、そういった大学との提携は学生のやる気で実現できる（最低限のコストでできる）、ウィーン、ザルツブルクに留学している友人もそのような出前ワークショップを行なっていると聞いた。
・音楽療法は医療行為であり、重い責任を伴うため、今からしっかりと検討と準備をしておくべき。専門のスタッフも必要。
・ホールに愛称をつければ良いと思う。市民に愛されて利用しやすいホールにしてほしい。

- ・市民文化の支援と貸し館
市民の多様なニーズに対応、関係団体・市民との協働を通して、日頃の活動の場や“ハレの舞台”を提供します。

交流・地域活性化事業

- ・大規模大会・集会
各種の全国・県規模の大会や集会等を積極的に誘致し、地域振興にも貢献します。

施設運営支援事業

- ・運営スタッフの育成
市民に運営面でも関わっていただき、ともに歩み育てる施設を目指します。
市民参加の推進（広報活動等）
情報提供・発信に努めるとともに友の会組織等も設け、地域全体で支えあう施設を目指します。

<参考> ホール各事業の具体的イメージ

項目	具体的イメージ	回数等
子ども育成事業	<ul style="list-style-type: none"> ・定期演奏会にあわせた交響楽団との音楽交流会 ・フェスティバルにあわせたアーティストとの音楽交流会 ・演劇公演等にあわせた劇団との演劇交流会 ・音楽大学、地域の音楽家等との交流会 ・伝統芸能、民族音楽等の体験教室 ・小中高校の芸術鑑賞、小中学校合同音楽会（吹奏楽・合唱） 	年2回 年1回 年1回 各年1回 年1回 年5回
文化・芸術鑑賞事業	<ul style="list-style-type: none"> ・フランチイズ提携による国内交響楽団の定期演奏会 ・音楽、演劇、オペラ等魅力的な公演（自主事業） ・貸し館の積極的な推進による各種興行・イベントの開催 	年2回 年3回 随時
参加・体験型事業	<ul style="list-style-type: none"> ・「上田城跡能（能楽講座・子ども能楽体験）」の継続実施 ・「バックステージツアー」、「民族音楽の体験講座」などの開催 ・提携楽団による「ランチタイムコンサート」、「ワンコインコンサート」、「親子コンサート」などの実施 ・演劇公演等にあわせたレクチャーつき公演 	年1回 年2回 年3回 年1回
地域文化醸成事業	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、福祉施設、公民館などへの「出前コンサート・出前公演」 ・「音楽療法プログラム」、「高齢者対象の音楽療法」などの実施 ・文化活動相談窓口、各種レファレンス支援、団体・サークル案内など市民の文化に対する支援の実施 ・市民の多様な文化活動の舞台となる場の提供（貸し館） 	年3回 年5回 随時 随時
交流・地域活性化事業	<ul style="list-style-type: none"> ・各種大会、コンベンション利用の推進 	随時
施設運営支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・レセプション育成講座、舞台技術ワークショップ、ホールマネジメント体験講座等による、ホール運営への市民参加推進 ・情報誌、コマーシャル等による情報提供 ・友の会組織等の運営 	年3回 随時 随時

<参考> 市民説明会等での意見・要望

- 交流・地域活性化事業について
- ・各地域で開催している成人式を合同で開催してはどうか。

2. 美術館施設の事業計画

(1) 美術館の運営理念

「21世紀の美術教育(ひとづくり)の聖地を目指して」

(2) 事業方針

郷土作家の精神を生かし、子どもたちとともに育成
郷土作家の顕彰・企画展示
創作・創造性を高め、参加・体験できる施設
市民とともに歩む、開かれた施設
ホールや交流施設との連携

(3) 美術館機能を中心とした主な事業展開

子ども育成事業

子どもアトリエ

幼児から小中学生を対象とし、芸術に親しむプログラムを実施します。

教育との連携

小中学校の芸術鑑賞・造形教室、児童生徒の美術展、教師を対象とした指導者ワークショップ等を実施します。

文化・芸術鑑賞事業

常設展示

子どもたちと市民の視点に立った、郷土作家の理念を顕彰します。

企画展示、県展・東信美術展等

「特別展」など、市民が望む魅力ある展覧会を開催するとともに、長野県美術展、東信美術展などの大規模展示を実施します。

参加・体験型事業

ワークショップ

版画・農民美術・写真など「上田らしい」ワークショップを設けます。

・エイブルアート・アートセラピー

エイブルアートやアートセラピー等、他分野と連携した活動をします。

地域文化醸成事業

アウトリーチ

出前展示や講演会等を行ない、広域で市民と協働します。

・市民ギャラリー・アトリエ

市民ギャラリーや多目的ルームを中心に、多様なニーズに対応し、市民の日頃の活動の場と、成果発表の場を提供します。

交流・地域活性化事業

子ども美術コンクール

山本鼎版画大賞展の継承とともに、子ども美術コンクールの実施について検討します。

<参考> 市民説明会等での意見

事業方針について

- ・全国から山本鼎についての研究者が集まる拠点施設にしてほしい。
- ・民間を含め、他の美術館との連携・交流を大切にしてほしい。ノウハウも吸収してほしい。
- ・他県に何度も訪れている美術館がある。この美術館もそういう魅力的な館にしてほしい。

子ども育成事業について

- ・幼稚園などで美術の出前講座を行なっている。鑑賞も大事だが、参加体験を通じた子育て支援の美術館であるべき。人への投資である。
- ・小学校で対話型鑑賞の活動に関わっている。挙手をして発言できない子が、作品を見て対話をすることで積極的になった。このような活動を行なってほしい。
- ・事業内容に学校との連携があることが良い。文科省の学習指導要領にも合っている。子どもが色々な作品に触れるのは大切であり、美術教育の根幹となる。
- ・美術の先生の研修事業を行ってほしい。

文化・芸術鑑賞事業について

- ・山本鼎や石井鶴三は子どもの教育に尽力した人。それを全国に発信する美術館を望む。
- ・「山本鼎と石井鶴三の関係」が明確になるような展示・研究を今から進めて欲しい。
- ・市は山本鼎の作品を多く所蔵している、積極的に展示してほしい。
- ・山本鼎の功績は偉大、人間の生き方を示してきた人。顕彰に力を入れてほしい。
- ・石井鶴三は山本鼎なみに展示してほしい。ハリー・K・シゲタの展示もうれしい。
- ・郷土作家の評価が高いといっても、あくまでも地元の評価ではないか。
- ・郷土作家の常設展示を行うには、所蔵作品が少ないのではないか。
- ・巡回展のほか、他館から作品を借りるなど、直接良い作品に触れる機会を作ってほしい。子ども達の感性を揺さぶる働きもあると思う。
- ・とても楽しみにしている。大勢の人が興味を持つ展示(相田みつを展、いわさきちひろ展、高橋まゆみ人形展など)を企画してほしい。特にマンガ関連は子ども達も喜ぶと思う。
- ・市内だけを対象にした小さなギャラリーという位置づけではなく、市外、県外から人々が訪れるような、魅力的な企画展を望む。

参加・体験型事業について

- ・美術館にワークショップ事業が入ったことは素晴らしい。
- ・芸術系大学との提携はどうか。ある芸術大学では、デザイン科の学生が子ども向けアートアスレチックを実施して期間限定で発表(子どもを遊ばせる)していたと聞いている。そういった大学との提携は学生のやる気を実現できる(最低限のコストでできる)。
- ・美術館は展示が主だと思われるが、創造活動が主である。その創作活動の場が使いやすいものになるようにしてほしい。どのような活動が行なわれるのが課題。
- ・とても楽しみにしているが、市民ひとりが年間に有料の展示に足を運ぶ回数は少ないと思う。日常的に行ける工夫(無料の展示会、夜の時間帯の活用など)をお願いしたい。

地域文化醸成事業について

- ・親睦交流のための講座を開いたり、制作者・愛好者・来場者の拠り所としてほしい。

交流・地域活性化事業について

- ・山本鼎の精神を継承するため、児童自由画展覧会を開催してほしい。
- ・コンクールは市民の支援があつてのもの。慎重に検討してほしい。
- ・クラフトフェスティバルは地元の作家が作品を販売できる場としてほしい。

- ・工芸・クラフトフェスティバル
農民美術の理念を活かし、地域の産業振興につながるフェスティバルを展開します。

施設運営支援事業

運営スタッフの育成

子どもアトリエ・サポーター養成講座等を設け、地域全体で支えあう施設を目指します。

市民参加の推進（広報活動等）

情報提供・発信に努めるとともに、友の会組織等を設け、市民とともに歩む施設を目指します。

- ・ミュージアムショップ運営

訪れる楽しみを増やし、収益もあるミュージアムショップを設けます。

<参考> 美術館各事業の具体的なイメージ

項目	具体的なイメージ	回数等
子ども育成事業	<ul style="list-style-type: none"> ・「幼児対象各種芸術プログラム」、「子ども造形講座」の実施 ・「親子ふれあい芸術講座」の実施 ・子どもギャラリー(子どもが興味を持つ絵、触れる彫刻等)展示 ・小中学校の芸術鑑賞、造形教室の開催 ・児童生徒の美術展の開催 ・教師対象の指導者育成ワークショップの開催 	随時 年2回 通年 年2回 年1回 年1回
文化・芸術鑑賞事業	<ul style="list-style-type: none"> ・上田市ゆかりの郷土作家作品の顕彰展示 ・郷土作家と関連した企画展示や市民が望む魅力ある企画展示「特別展」等の開催 ・長野県美術展、東信美術展などの大規模展示、巡回展示 	年4回 年2回 年2回
地域文化顕彰事業	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土作家を中心とした収集・管理・調査・研究、及び発表 	通年
参加・体験型事業	<ul style="list-style-type: none"> ・絵画、版画、彫刻、農民美術、写真等のワークショップ ・エイブルアート展の開催 ・アートセラピー講座等他分野と連携した事業の実施 	年5回 年1回 年5回
地域文化醸成事業	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、福祉施設、公民館などへの出張展示・講演会等の開催 ・文化活動相談窓口、各種レファレンス支援、団体・サークル案内など市民の文化に対する支援の実施 ・市民の多様な文化活動の場（アトリエ・市民ギャラリー等）の提供（貸し館） 	年5回 随時 随時
交流・地域活性化事業	<ul style="list-style-type: none"> ・山本県版画大賞展の継続実施 ・「子ども美術コンクール」等全国規模の新たなコンクールの実施 ・農民美術を活かした「工芸・クラフトフェスティバル」の開催 	3年に1回 3年に1回 年1回
施設運営支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもアトリエサポーター養成講座」など各種ボランティア育成講座や体験講座を通じた、美術館運営への市民参加推進 ・情報誌、コマーシャル等による情報提供 ・友の会組織等の運営 ・ミュージアムショップの運営 	年4回 随時 随時 通年

<参考> 市民説明会等での意見

施設運営支援事業

- ・ミュージアムショップでは市民アーティスト作品（ママさん作品など）を販売してはどうか。

3. 施設全体を活用した事業計画・既存文化施設との連携（総合的事業展開）

複合施設という特長を活かし、大小ホール、美術館、交流施設、芝生広場 など施設全体を活用して行う事業、そして、丸子文化会館（セレスホール）・上田文化会館・上田創造館等、各地の既存文化施設と協力して行う事業については次のとおりとします。

施設全体を活用した事業

フェスティバル

施設全体、既存文化施設と協力し合い、上田の“顔”となる事業を実施します（ポピュラー、クラシック、芸能、美術講座等幅広いジャンル）。

市民文化祭

市民が中心となり、音楽・美術・芸能等多方面にわたる日頃の文化芸術活動の成果を発表し、交流しあう場を提供します。

既存施設等との連携事業

・既存文化施設との連携

互いに調整・協力し合い、各種事業共催して広域に展開します。

<参考> 総合的事業展開の具体的なイメージ

項目	具体的なイメージ	回数等
フェスティバル	<ul style="list-style-type: none"> ・大小ホールでの各種コンサート（誰もが楽しめるポップス系を中心に、バリエーションに富んだコンサートを展開） ・芝生広場での野外ライブ ・美術館でのミュージアムコンサート ・音楽だけでなく展覧会、トークショー、伝統芸能とのコラボレーションなど、幅広いジャンルを融合させた事業展開 ・子どもたちとの音楽交流、ロビーコンサート、アウトリーチ活動等、付帯事業も充実させる 	年1回
市民文化祭	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃市民が主体的に活動している各種団体・サークル等が一堂に会する発表・交流の場（合唱、合奏、演劇、ダンス、舞踊、バンド、絵画、彫刻、写真、書道、陶芸、華道、茶道、詩吟、俳句、カラオケ・・・） ・市民合唱祭、オリジナル市民ミュージカルの制作、公演 	年1回
既存文化施設との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・市内各文化施設と連携したイベントの開催 ・各施設の特徴を十分に活かす、役割分担・機能分担の調整 	随時

<参考> 市民説明会等での意見

施設全体を活用した事業

- ・音楽や芸能等で世界的に有名になる催物が必要。（サイトウキネンフェスティバルのように）
- ・フェスティバルは市民の支援があってのもの。慎重に検討してほしい。失敗例もあると聞く。

既存施設等との連携事業

- ・既存文化施設にスクリーンを設けて、交流・文化施設の催しを映し出してはどうか。
- ・地域の既存文化施設を引き続き活用し、食費や交通費など、経済効果が各地域へ広がるよう配慮してほしい。そうしなければ、隣接の大型商業施設にすべて吸収されてしまう。
- ・既存文化施設の今後の活用方法が見えない。利用率が下がらないように工夫してほしい。また、これまでと同程度の事業展開が行われるように配慮してほしい。
- ・美術館の事業計画案を見ると、従来創造館を利用してきた企画が大幅にこの美術館に移ることになると予想される。一面では新しく整った施設で諸企画が行なえるメリットはあるが、反面新上田市の中心部に主要施設が集中し、中心部から遠い場所は寂れていくのではないかと。新しい施設の取り組みにも並行して各地域の存在意義を忘れないでほしい
- ・子どもの教育は地域性が重要。この施設に様々な要素を集中させすぎないように配慮してほしい。
- ・武石地域にお住まいの年配の方が来たくても来られないのではないかと。バスを巡回させて、施設を訪れ、文化に触れる。そして地域の特産物もそこで売れる、買える。物と人が交流できる施設であってほしい。

運営管理体制・組織

交流・文化施設の運営管理体制・組織は、以下の点に留意しながら進めていくべきと考えます。
 こうした高度で専門的な施設の場合、運営管理体制や具体的人材の配置等は、開館の2年前程度にはほぼ決まり、開館に向けた準備を進めていく必要があります。

特に、専門的人材の確保は相当の時間がかかると思われるので、組織・体制作りと併せて早急に取り組むべきです。

(1) 市民参加と協働

- ・文化・芸術団体や多くの市民の皆さんの、施設を利用するだけでなく運営管理の面も含めた積極的な参加＝協働により、市民とともに歩む施設を目指します。
- ・いつも人々が集う施設を作り出すために、市民自らが参画する「サポーター」や「友の会」などのサポート組織を設置します。

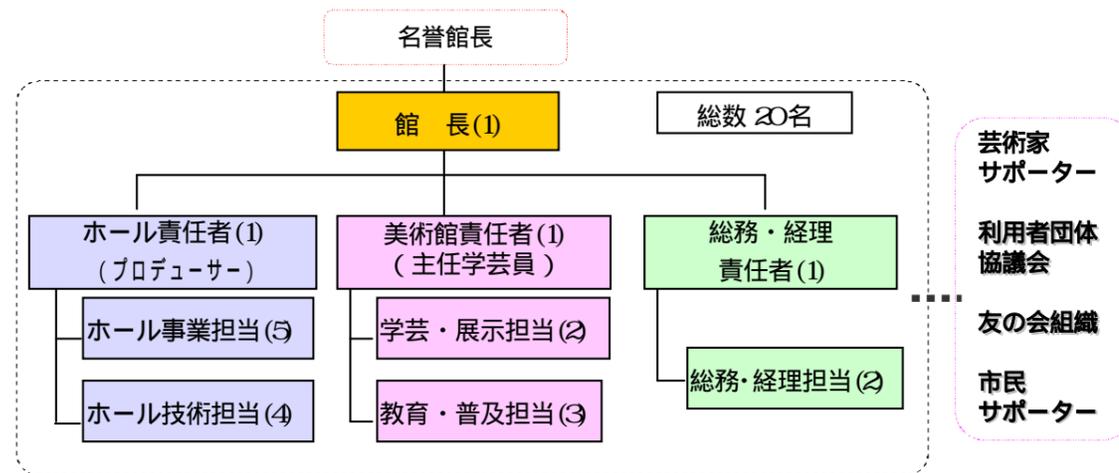
(2) 体制・組織

- ・基本的には、施設の“顔”となる「館長(名誉館長)」をトップに、実質的な事業運営には、ホールにプロデューサーなど舞台芸術の専門家が加わり、美術館には主任学芸員を責任者とするなど専門人材を登用します。

(3) 運営管理主体

- ・市民参加・協働、教育や福祉、地域経済や産業など、市の関連部署と連携した動きの道筋をつけるため開館時は直営施設とし、運営管理を進めていくこととします。
 なお、その後は事業評価を行ったうえで、指定管理者への移行も含めて慎重に検討する必要があります。

《組織イメージ》



<参考> 市民説明会等での意見

市民参加と協働について

- ・子どもたちにも良い作品を見てもらいたい。市民全体で関わっていくことが必要。
- ・「育てる」を理念にするのであれば、市民での手作りによる施設とすることが重要だと思う。
- ・今からサポーターなどの組織が立ち上がると盛り上がると思う。
- ・出来上がったハードを市民がいかにソフト面でサポートしていくか、市民一体となって実現していきたい。
- ・サポーターは、どの部分まで関わってもらうのかを明確にしなければ失敗する。慎重に検討してほしい。
- ・開館に向けて植樹や花植え、芝生張りなど、市民や子ども達を交えたイベントを実施すれば、自分たちで作った施設という意識が生まれ、親しみやすい施設になるのではないかと。

体制・組織について

- ・名誉館長は名の通った人が望ましい。
- ・名誉館長の配置は不要ではないか。
- ・プロデューサーにはいい人材を早く確保してほしい。
- ・発想豊かなプロデューサーの登用を望む。
- ・施設の維持は大変。館長、学芸員、そこで働くスタッフは力量ある人材を望む。
- ・使い勝手の良い施設にするには最後は人の問題。スタッフの選定には十分配慮してほしい。
- ・より良い運営はスタッフの手腕にかかっている。音楽大学の中にはホール運営のための学科を備えている大学があり、そうしたところで人材を確保してはどうか。
- ・良い作品を持ってくるには学芸員の力が大きい。
- ・稼働率によって財政負担が問題になる。スタッフは、文化に対する感性のある人が大事。
- ・お金の財産(資金)も重要だが、「人の財産」をもっと大切にしてほしい。上田から育っていった活躍をしている人たちを財産と考えて、もっと頼り、働きかけてはどうか。ふるさと上田が大好きな人達も多い。住んでいなくても上田出身の方たちは財産であり、そういう方達を吸い寄せる建設としてほしい。

運営管理主体について

- ・指定管理者制度の導入は慎重に検討してほしい。失敗例もあると聞く。

運営管理経費見込み

交流・文化施設の運営管理に係る経費(ランニングコスト)の見込みは以下のとおりです。

事業費は、事業計画に基づき、収支の見込みを試算しました。

人件費は、「運営管理体制・組織」の組織イメージに基づき、20名分の人件費として試算しました。なお、施設の実際の運営・管理に当たっては、ホール舞台の技術者等、別途委託によるスタッフを確保する必要があります。

維持管理費は基本設計に基づき、施設全体の光熱水費、建築設備、舞台設備の管理経費、及び清掃・警備等の施設保全費を試算したものです。

今後さらに、運営管理の具体的検討を進める中で、事業費、人件費等の必要な経費の確保に努められるとともに、引き続き経費の節減にも留意され、将来にわたり市民に愛される施設となることを願っております。

【収支試算結果表】

(単位：千円)

項目	支出金額(経費)	事業収入金額	差 額	(整備計画収支)
維持管理費	231,000	-	231,000	231,000
事業費	ホール事業費	50,000	67,200	17,200
	美術館事業費	35,300	27,000	8,300
	全館事業費	53,000	65,100	12,100
	事業費 計	138,300	159,300	21,000
人件費	104,000	-	104,000	100,000
合 計	473,300	159,300	314,000	314,000

<参考> 市民説明会等の意見

運営管理経費の見込みについて

- ・ 構想、理念ともに素晴らしいし、必要な施設だと思うが、維持管理費はできるだけ節減に努めてほしい。
- ・ 消費税が上がれば維持費も膨らむのではないかと不安。
- ・ しっかりと事業費を確保して優れた催しを実施してほしい。運営管理には弾力性も必要。
- ・ 自主事業は黒字を出すよう努力してほしい。
- ・ 作品を購入する予算も確保してほしい。有名作品の購入も必要。
- ・ 上田市民は高い入場料は払わないと思う。催しの入場料は安くしてほしい。
- ・ 使用料は市民や小中学校が使いやすい設定にしてほしい。文化を育てるに、生涯学習のために、高額な使用料であってはならない。
- ・ 大ホールの使用料は使用する催しの規模に応じて(1,000席なら 円など)設定してほしい。
- ・ 使用料は利用する団体によって格差が出ることを避けよう、適正な設計を望む。
- ・ 使用料はなんでも減免というよりも、受益者負担という考えも必要。その方がしっかり活動すると思う。

事業費試算内訳

項目		支出金額(経費)	事業収入金額	差 額		
維持管理費	施設全体	231,000	0	231,000		
事業費	ホール事業費	子ども育成事業	教育との連携	3,000	3,000	0
			演奏家との交流等	1,500	0	1,500
		文化・芸術鑑賞事業	魅力的な公演	20,000	11,600	8,400
			フランチャイズ	12,000	12,000	0
			興行利用の推進	0	16,600	-16,600
		参加・体験型事業	観客育成型公演	1,500	3,000	-1,500
			ワークショップ	5,000	3,100	1,900
		地域文化醸成事業	アウトリーチ	2,000	300	1,700
			市民文化活動支援・貸し館	0	8,700	-8,700
		交流・地域活性化事業	大会・集会利用	0	8,900	-8,900
	施設運営支援事業	運営スタッフの育成	1,000	0	1,000	
		市民参加の推進	4,000	0	4,000	
	ホール事業費小計		50,000	67,200	-17,200	
	美術館事業費	子ども育成事業	子どもアトリエ	1,600	1,000	600
			教育との連携	2,400	1,900	500
		文化・芸術鑑賞事業	常設展示	600	600	0
			企画展示・巡回展示	17,000	13,400	3,600
		地域文化顕彰事業	収集・管理・調査・研究	1,100	0	1,100
		参加・体験型事業	ワークショップ	1,000	800	200
			福祉・医療との連携	1,000	0	1,000
		地域文化醸成事業	アウトリーチ	1,000	0	1,000
			市民アトリエ・ギャラリー(貸し館)	0	5,200	-5,200
		交流・地域活性化事業	全国コンクール	3,000	3,100	-100
			工芸・クラフトフェスティバル	1,000	1,000	0
施設運営支援事業		運営スタッフの育成	1,600	0	1,600	
		市民参加の推進	4,000	0	4,000	
		ミュージアムショップ	(収支は別途検討)			
美術館事業費小計		35,300	27,000	8,300		
施設全体事業費	総合的事業	フェスティバル	48,000	60,100	-12,100	
		市民文化祭	5,000	5,000	0	
施設全体事業費小計		53,000	65,100	-12,100		
事業費合計		138,300	159,300	-21,000		
人件費	人件費合計	104,000	0	104,000		
総合計		473,300	159,300	314,000		